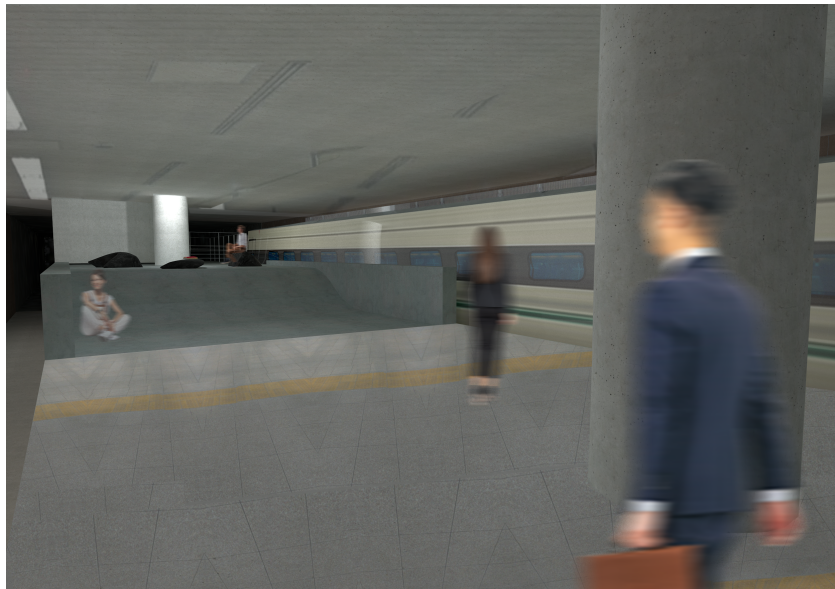




硯土間（すずりどま）

ここに石があること、遠くの波の音。

書道をしたときに硯に目を奪われる。硯の中の丘のような形は登りたくなるようなちょうどよさがあって、いつもひんやりと心地よい。硯の良さと土間を掛け合わせ、「硯土間」という手法を考えた。

私の友達は雄勝（宮城県石巻市）に住んでいた。雄勝は雄勝石を使用した硯が有名で、東京駅の屋根にもスレートが使用されている。ちょうど、東京駅の修復の屋根をかける頃に震災が起きた。しかし、雄勝の人たちはくじけなかった。

東京駅の地下鉄駅構内に、硯土間と雄勝石を使用した空間を計画する。地下鉄の空間に同じ冷たさを持ちながらもあたたかい空間を差し込む。石のひんやりとした空間は、都市のオアシスとして機能するだろう。電車を待つ間に遠く離れた雄勝に思いをはせる。

